

I. 事業の概要

1. はじめに

2020年度の世界経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により、依然として厳しい状況にあったが、持ち直しの動きがみられた。先行きについては、持ち直しの動きが続くことが期待された。ただし、感染の再拡大が経済活動に与える影響によっては、景気が下振れするリスクがあり、また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要があるとした。

こうした中で2020年度の当工業会の事業としては、1) 国際展示会に関する事業(次回JIAM展の取り組み)、2) 家庭用ミシンを使ったモノづくりの普及促進(家庭用ミシン事業)、3) コネクテッドインダストリーズへの対応、4) 工業会活動の活性化及び効率化の推進等を行うとともに、業界の発展に係わる諸課題の克服に向け会員への支援に取り組み、市場活性化と更なる発展を目指し各種事業を実施した。

2. 活動概要

1) 国際展示会の開催に関する事業

当工業会が主催するJIAM展は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、2020年の開催を延期し、新しい日程及び見本市名等を以下のとおり発表し、準備に向けて活動を実施した。

(1) 開催概要

- ①見本市名：JIAM 2022 OSAKA－国際アパレル機器&繊維産業見本市－
- ②会 期：2022年11月30日（水）～12月3日（土）〈4日間〉
- ③会 場：インテックス大阪 4, 5, 6号館
- ④主 催：一般社団法人日本縫製機械工業会（JASMA）

(2) JIAM展延期に伴う処理について

- ①ニュースリリース等により、会期の延期を周知した。
- ②出展者に対して、JIAM 2022へのスライド出展又はキャンセル（必要経費を差引いた出展料を返金）の選択を提示した。その結果は次のとおり。
スライド出展者：83社
キャンセル出展者：33社

(3) JIAM 2022実行委員会及びWGの開催状況

実行委員会を1回、WGを2回、オンラインにて開催し、現状に関する報告及びJIAM 2022のテーマ、セミナー及び主催者企画等に関する検討等を行った。

(4) JIAM 2022ホームページでのPR活動

日本語ページの他、英語及び中国語ページでJIAM 2022の情報を発信した。

(5) JIAM 2022ニュースリリースの発信

2020年5月28日付で次のニュースリリースを発信した。

- ①「開催日程の変更を発表」（日本語）
- ②「Next JIAM OSAKA to be held in 2022」（英語）
- ③「JIAM OSAKA将于2022年举办!」（中国語）

(6) Eメール配信

- ①（JIAMデスク）在宅勤務のお知らせ（4月6日付、国内、海外出展者、日本語・英語）
- ②新日程および出展料取り扱い（5月27日及び5月29日付、国内出展者）
- ③開催日程の変更を発表（5月28日付、国内プレス、海外プレス、日本語・英語・中国語）
- ④新日程および出展料取り扱い（5月28日及び6月1日付、海外出展者、英語）

2) 家庭用ミシン事業

ユーザーニーズが「画一性から個性化へ」と移行しつつある環境に応え、ホームソーイングへの親しみの場を設け、家庭用ミシン市場の活性化に努めるとともに、健全な市場の拡大を図るため以下の事業を実施した。

(1) ソーイングの普及促進について

①第41回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール

「第41回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」を実施し、学校教育におけるソーイングの普及拡大に努めた。応募校数及び応募作品点数の増加を図るため、経費に配慮しつつ、送付先と応募状況の関係を分析して、6月に学校へ応募要領（A3版両面）を郵送するとともに、Eメールでの配信（小学校3,214校、中学校312校）を行い、学校への連絡を強化させた。また、応募点数、応募校数が減少傾向にあるため、市場対策第一

a) 作品の応募状況

○応募作品点数 合計 2,482点（前回は 78.5%）

○応募校数 合計 415校（前回は 90.4%）

b) 審査経過

○第一次審査

日 時：2020年12月8日（火）～9日（水）

○第二次審査

日 時：2020年12月26日（土）

○審査結果

※入選作品名、入選校名については、「第41回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品一覧表」に記載。

②第42回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールについて

今後のホームソーイング小・中・高校生作品コンクールの在り方について検討し、技術要素ばかりでなく、デザイン性、実用性など審査時の評価方法の見直し、入賞数割合（応募数に対する賞数等）の見直しなどを検討するとともに、応募要領の応募方法に関する項目に、応募用紙記入の際して「作品製作に対する思い」を必須項目とする旨、記載を追加することを決定した。

④新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント等の中止

a) 2020日本ホビーショー

b) 2020年度経済産業省子どもデー

(2) 市場の活性化について

①流通の適性化を図るため、毎年4月1日現在及び10月1日現在の現行販売機種、新機種、廃機種を把握し、一覧表にまとめ流通団体等に通知することとしており、2020年4月1日現在及び10月1日現在の一覧表を作成し通知した。

②市場ニーズに的確に対処するため、2020年1月～3月分、4月～6月分、7月～9月分及び10月～12月分の国内販売機種について価格帯別の流通調査を実施し、調査結果を関係会員へ配布した。

③ホームソーイングの普及促進、ミシンの利用拡大を図りミシンを身近なものにするために、ミシン販売業界との連携を強化し、「技能士シール」（ミシン販売店に技能士（国家検定資格）がいることをアピール）及び展示台等を装飾するための販促物「テーブルスカート」を会員向け機関誌「ニュースレター」や、JASMAホームページでPRした。

④消費者及び地方公共団体、消費生活センター等からの問い合わせ、ミシンに関する各種の相談、照会に対処した。

3) 工業会活動の活性化及び効率化の推進

工業会と会員の発展のためその活動を広く周知させるとともに、工業会活動のさらなる活性化を図り且つその効率化を推進するため、以下の事業を実施した。

(1) 広報活動について

政府が公表する各種統計を整備して、JASMA統計(ミシンの生産・輸出入)として、2020年分を毎月発行し会員に情報提供した。また、2020年4月から2021年3月までのニューズレターを毎月1回発行し、工業会の事業活動をはじめ関係諸機関の動向について会員に提供した。

外部機関向け広報活動

a) 工業会活動等について外部機関への広報活動を積極的に行うため、JASMA会報(2020年4月号、7月号、10月号、2021年1月号)を発行した。

b) インターネットホームページの更新・充実

インターネットホームページの更新・充実に努め、工業会の事業活動等について最新情報を掲載した。

(2) 内外関係機関等との交流及び協力に関する事業

① 関係機関・団体との連絡協調について

a) ロボット革命イニシアティブ協議会との協調

同協議会へ会員として参加し、交流・協力を深めるとともに、情報等を入手し会員へ提供した。

b) 関係官公庁との交流、連携、協調

経済産業省及び関係官公庁の依頼による調査を実施し、資料及び情報の提供、意見の具申等に対応した。また、繊維関係団体との密接な関係を図り、情報共有、資料の交換等連携を図るとともに、当工業会が会員として加入している公益社団法人日本訪問販売協会、一般社団法人日本機械工業連合会、中央職業能力開発協会等において、役員、委員として縫製機械業界の意見反映等に努め協力関係の継続を図った。

② 軽機械センターの運営に関する協力について

海外との交流、市場動向フォロー等の事業を進めるため、その一環として軽機械センター(ベルギー・ブリュッセルセンター及び中国・北京センター)の運営に協力するとともに、市場動向等に関する情報を収集し、会員へ提供した。

③ 海外関係機関との交流及び協力について

Texprocess Americas(2020年5月12日(火)~14日(木)、米国・アトランタ)の開催が、2022年5月17日(火)から19日(木)までへ延期された。

(3) 工業会活動の効率化の推進(工業会の収支バランスの回復に向けた対応)

① 工業会活動の改革・見直しについて

工業会事務局業務の改善、効率化に向け、インターネットツールの調達、業務マニュアルの整備、電子化に取り組んだ。また、会員へはEメール連絡を徹底し、効率的な事務局運営に努めた。

② 会員の負担軽減の検討について

a) 委員会によってはEメールなどを活用した効率的な会議運営を実施した。

b) 新型コロナウイルス感染症への対応として委員会活動をウェブ会議で実施するため、ウェブ会議用ソフトを検討し、会員の利用が多い「Teams」を使用することとし、当工業会及び外部会議室で利用可能とする設備を導入し、ウェブ会議での開催を実施した。

(4) 工業会活動の確実な実施

① 生産性向上要件証明書の発行について

中小企業等経営強化法の固定資産税の軽減措置として、縫製機械等を対象とした証明書

発行団体の業務を実施した。

- ②「医療用物資・機器の緊急・増産に係る製造支援・協力」についての政府からの協力要請を受け、医療用ガウン増産に向けた協力要請を会員へ周知した。特に、ANA社員による医療用ガウン製造の要請を受け家庭用ミシンの提供を図るとともに、使用後の家庭用ミシンについてモノづくりの場での活用に協力した。

(5) 正会員、賛助会員の充実

内外展示会のJASMAブースでのPR活動及び中小企業等経営強化法に関する証明書の申請受付等に際して、工業会活動内容やメリットを広報し会員獲得に向けた取り組みを行った。

(6) 「縫製機械整備作業」技能検定に向けた取り組み

受検者増を図るため、ホームページからの情報発信による広報活動を行った。

(7) コネクテッドインダストリーズへの対応

政府が進めるコネクテッドインダストリーズに対応して、当業界並びに川上から川下業界を含めた生産工程のデータ連携に取り組み、縫製機械製造業の競争力を高めることを目的に、2020年度共通基盤ネットワーク研究会を以下のとおり3回開催した。

①第1回

日時 2020年10月20日(火) 14:00~16:00

場所 航空会館 他

議題等 a) 講演及び質疑応答

テーマ 工業用ミシンのIoT化の取り組みについて

講師 トヨタケ工業(株) 代表取締役社長

横田 幸史朗(よこた こうしろう)氏

b) 2020年度共通基盤ネットワーク研究会のすすめ方 他

②第2回

日時 2020年11月30日(月) 15:00~17:30

場所 航空会館 他

内容 a) 講演

テーマ 「5G標準化とNTTドコモの取り組み」

講師 (株)NTTドコモ ネットワークイノベーション研究所

アーキテクチャデザイン担当 永田 聡(ながた さとし)氏

b) 講演

テーマ 「コロナ禍によるアパレル業界と縫製工場の変化と今後について」

講師 (有)シナジープランニング

代表 坂口 昌章(さかぐち まさあき)氏

③第3回

日時 2021年2月17日(水) 14:00~15:15

場所 航空会館

内容 講演

テーマ 「SIer(エスアイアー)視点の装置立ち上げとスマートファクトリー構築」

講師 日本サポートシステム(株) 営業技術本部 マーケティング部

植地 祐奈(うえち ゆうな)氏

4) 使用技術の普及及び啓発に関する事業

(1) 知的財産権保護対策について

海外製品による知的財産権侵害品の流通実態の把握に努め、適切な対応を行い市場の健全な発展を図るため、以下の事業を行った。

①世界市場を対象とした「定期的模倣実態調査」を実施した。

「調査結果」※()内は前年度の件数

a)侵害件数 24件 (14件)

b)権利別侵害件数

意匠権 2件 (6件) 特許権 3件 (1件) 商標権 19件 (7件)

c)発見国別件数

中国 19件、パキスタン 1件、インド 1件、ベトナム 2件、

ウズベキスタン 1件

(前年度国別件数 中国 12件、韓国 2件)

②政府関係機関の日本貿易振興機構(北京センター、上海センター、ソウルセンター)等の情報を入手し、随時、会員企業へ提供した。

③「国際知的財産保護フォーラム・模倣品対策 情報収集グループ」の会合へ参加し、関係団体等と情報を交換した。

(2)我が国機械工業における最先端技術及び技術革新に関する現状を把握し、縫製機械産業の技術開発の参考とするため、技術第一委員会、技術第二委員会等において実施を計画していた外部の技術視察は、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は開催を見合わせることにした。

(3)電気用品安全法の技術基準体系の見直しに対応するため、他団体の分科会に参加し情報を収集した。

(4)内外の環境規制に関する情報を収集した。

5)生産、流通等に係る調査及び企画の立案・推進に関する事業

(1)調査事業について

①海外調査

日本貿易振興機構及び軽機械センター(ブリュッセル、北京)等との連携を図り、主要国の需要動向、経済動向等について情報の収集に努め、会員へ提供した。

②国内調査

国が公表する政策、生産、国内流通、輸出入統計並びに諸団体が実施する諸統計資料等を収集整理分析し、「JASMA統計」「ニュースレター」等により会員等へ情報提供した。また、関係当局からの諮問あるいは関連団体、他業界からの照会等に対処した。

(2)統計事業について

ミシンに関する経済産業省の生産動態統計及び財務省貿易統計を毎月入手し、整理・分析を行い、定期的に会員へ提供するとともに、一般に対してホームページで公表した。

①家庭用ミシン、工業用ミシン及び部品について、生産、輸出入に関する工業会統計を作成した(四半期・半期)。更に生産基地の海外移転が進展している実態を踏まえて、家庭用ミシン及び工業用ミシンについて海外生産統計を整備し会員に提供した。

②需要見通しについて

2020年1~12月期のミシンの生産、輸出、輸入実績に、コロナ禍の影響、内外の経済動向、市場環境等を勘案し、当工業会の市場対策第一及び第二委員会等の関係者の意見を参考に、2021年1月~12月分のミシン需要見通しを作成した。

(3)工業用ミシン・部品・関連機器事業について

情報社会、環境社会及びグローバル化の進展に対する的確に対応し、市場の活性化に努めるとともに、業界の健全な発展を図るため、以下の事業を実施した。

①国内及び海外市場について、日本機械工業連合会から週報等を定期的に収集するとともに、

日本貿易振興機構及び軽機械センター（北京、ブリュッセル）から海外情報を収集し、定期的に会員へ提供した。

②最新の国際情勢を把握するため、関係機関との連携、交流により、情報収集を行い、会員へ提供した。

a)日本機械工業連合会の機械安全標準化に関する会合へ参加し、国際規格等（ISO/IEC）の情報を収集した。

b)日本機械輸出組合の会合へ参加し、WTO等の国際機関の情報及びEPA、FTA及びTPPなどの貿易協定に関する情報を収集した。

③第30回部品部会の中で外部有識者によるウェブ講演会を以下のとおり開催し、意見、情報交換を行った。

日 時 2020年10月2日（金） 13:30～14:15

場 所 工業会会議室

内 容 講演他

テーマ 「ものづくりDX（デジタル・トランスフォーメーション）、
II型（ばいがた）能力、アンラーニング～魅力ある製造業の
再構築に向けて～」

講 師 日鉄総研(株) 客員研究主幹 山藤 康夫（さんどう やすお）氏

6) 標準化の推進に関する事業

(1) 国内規格（JIS規格等）について

関連団体との交流を図り、規格に関する情報の収集を行い、随時、会員企業へ提供した。

(2) 国際規格（ISO/IEC規格等）について

①国際規格活動（ISO/TC148・ミシン）を積極的に行うとともに、工業用ミシンの国際規格（ISO 10821）の情報収集を行った。

②国際標準化協議会及び一般社団法人日本機械工業連合会との交流を図り、IEC/TC44部会（機械安全）に参加し国際規格等の情報収集を行った。

7) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

(1) 労働力の確保に関する事業について

業界全般の労務状況、働き方改革等について労務委員会で意見交換を行った。

(2) PL対策について

当工業会ではPL事故防止対策等の一助として、あいおい損害保険会社と団体PL保険契約を締結しており、現在契約件数2件である。

（注）団体保険のため、期間は12月10日から1年間である。ただし、加入はいつでも可能。

IV. 会員

1. 会員数

	正会員	賛助会員	合 計
2020年6月5日現在	35社	9社1団体	45社・団体
退 会		1社	
2021年1月31日現在	35社	8社1団体	44社・団体